

筑波大学附属病院及び開院 50 周年記念シンボルマークを制作

— 地域とともに歩む医療の姿勢を、かたちに —

筑波大学附属病院は、令和8年10月1日に開院50周年を迎えます。この節目にあたり、これまで支えてくださった地域の皆さまへの感謝と、次の50年に向けた新たな歩みへの意思を表すため、病院のシンボルマーク及び開院50周年記念シンボルマークを制作しました。

本院は1976年の開院以来、県内唯一の特定機能病院・高度救命救急センターとして、地域に根ざしながら高度・先進医療を担ってきました。一方で、医療の高度化・専門化が進む現在においてこそ、患者さん一人ひとりの思いに寄り添い、人と人とのつながりを大切にする姿勢がこれからの大学病院にとって重要であると考えています。制作したシンボルマークは、そうした本院の理念を視覚的に表現したものです。モチーフには「心」のかたちを取り入れ、患者さん、家族、医療者、そして地域の人々が互いに支え合う姿を象徴しています。シンボルマークの制作にあたっては昨年12月から本年1月にかけて広く募集を行いました。全国から多数の応募が寄せられ、審査を経て選定されたデザインに一部修正を加え、正式なシンボルマークとして決定しました。本マークは、本院の広報活動や開院50周年記念事業をはじめ、さまざまな場面で活用していきます。

平松祐司 病院長のコメント

筑波大学附属病院は、地域の皆さまに支えられ、本年、開院50周年を迎えます。今回制作したシンボルマークには、医療の高度化・専門化が進む時代にあっても、患者さん一人ひとりの思いに寄り添い、人と人とのつながりを大切にする病院であり続けたいという私たちの願いを込めました。50周年を新たな出発点として、ハートフェルト（心の通った）な医療を軸に地域とともに歩む病院であり続けるための取り組みを進めてまいります。

○附属病院シンボルマーク



UNIVERSITY OF
TSUKUBA
HOSPITAL



筑波大学附属病院
UNIVERSITY OF TSUKUBA HOSPITAL

○附属病院開院 50 周年記念シンボルマーク



【本件に関する問い合わせ先】

筑波大学附属病院総務課（総務・広報）
E-mail: hsp.somuka@un.tsukuba.ac.jp